



トーマス・アナン 『グラスゴウの古い小路と街路』より 1868-77年

ストリート・ライフ

ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち

Street Life: Chronicles of Europe by Seven Photographers

会期 2011年12月10日(土) - 2012年1月29日(日)

会場 東京都写真美術館 3階展示室

主催 東京都 東京都写真美術館

■ 展覧会概要

東京都写真美術館では、2004年に開催した「明日を夢見て～アメリカ社会を動かしたソーシャル・ドキュメンタリー」展のヨーロッパ版の展覧会として、「ストリート・ライフ ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち」を企画いたしました。ヨーロッパは複雑な文化構造をもっています。今回はイギリス、フランス、ドイツといった世界の写真表現をリードした国々で、19世紀後半から20世紀前半にどのようなソーシャル・ドキュメンタリーが展開されたのかに焦点をあてて作品をご紹介します。

写真史初期の19世紀から、写真による社会的な記録は行われています。アメリカのように社会改良の手段としても行われていましたが、ヨーロッパでは急速な近代化によって変貌してゆく都市の姿を記録しようとする精神が盛んでした。それは失われようとする歴史を後世に残し伝えようとする「記録精神」の現れといえるのではないでしょうか。この「記録精神」は、20世紀に入ると近代的な感性と優れた創造力に裏打ちされて、近代的写真表現の豊かな成果として多くの作品を生み出しました。

本展では、写真先進国をいってよい西欧の3ヶ国より、トーマス・アナン(英)、ジョン・トムソン(英)、ビル・ブランド(英)、ウジェーヌ・アジェ(仏)、ブラッサイ(仏)、ハインリッヒ・ツィレ(独)、アウグスト・ザンダー(独)といった7人の写真家たちの作品から、ヨーロッパのソーシャル・ドキュメンタリーの記録精神を探ろうとするものです。

出品作品は、約2万5000点の東京都写真美術館のコレクションより選りすぐられた名作、問題作を中心に、国内の美術館所蔵の作品をあわせて**183点**で展示を構成します。

■出品点数:写真作品 183 点、書籍 7 点 ※詳細は別紙の出品作品リストをご覧ください

ソーシャル・ドキュメンタリーとは？

人種差別や労働問題、環境問題など大きな社会的問題から、日常のさまざまな小さな問題まで、あらゆる社会的な事象に目を向けるために撮られるドキュメンタリー写真。それらの問題を記録し、明らかにすることで、社会に働きかけることを目的とする。



ジョン・トムソン 徘徊者たち『ストリート・ライフ・イン・ロンドン』より 1877-78年、ウジェーヌ・アジェ キャバレー「金の十字架」、サン・タンダレ・デ・ザール通り 54 番地 1900年、アウグスト・ザンダー 若い農夫たち 1914年頃、ブラッサイペイ・ブイエの群像、モンパルナス 1932年、ビル・ブラント 若い主婦、ベスナル・グリーン 1934年、ハインリッヒ・ツィレ 荷車一杯の木を運ぶ2人の女、シャルロットテンブルクを背景に1898年

■出品作家(7名)

ビル・ブラント (1904-1983)

ドイツ生まれ。マン・レイ の助手をつとめたことによるシュルレアリスムの影響から、独自の表現スタイルが特徴的なヌードやポートレート写真などが有名だが、1930年代には、イギリス人の社会生活を記録して『イングリッシュ・アット・ホーム』(1936年刊)として発表する。

アウグスト・ザンダー(1876-1964)

ドイツ生まれ。あらゆる階級や職業のドイツ人を記録し、社会構造を見ようとする壮大なプロジェクトを手がけ、その一部を『時代の顔』(1929年刊)として発表する。36年、ナチスに押収されるが、幸運にも消失を免れたネガからのプリントと撮影が戦後も続けられた。

トーマス・アナン(1829-1887)

イギリス生まれ。1868年、グラスゴー市からの委託により、再開発計画の一環として壊される前の都市グラスゴーの建築物や街頭の風景を記録する。そのなかで捉えられた貧しい居住者たちのすがたは、ジェイコブ・A. リースのニューヨーク、スラム街のドキュメンタリーとの類似性を見出すことができる。

ジョン・トムソン(1837-1921)

イギリス生まれ。1860年代から70年代前半にアジアを旅し、その異文化を記録する。イギリスでの国民生活の様々な問題が社会問題として認識されはじめた70年代中頃には、ロンドン市民の暮らしを撮影し『ストリート・ライフ・イン・ロンドン』(1877年刊)としてまとめた。社会改良のドキュメンタリーの先駆けとなる。

ハインリッヒ・ツィレ(1858-1929)

ドイツ生まれ。ワイマール政権下の市民生活を風刺したリトグラフなどが高く評価され、数多くの絵本も刊行している。写真を始めたのは1880年代末頃で、画家としての主題を、都市の社会条件に向け始めた時期と重なる。社会の弱者たちに対する優しい視線でベルリンを記録した。

ブラッサイ(1899-1984)

ハンガリー生まれ。『夜のパリ』(1932年刊)として発表された写真集は後世の写真家たちに多大な影響を与える。マグネシウム・フラッシュを多用して魅力的なパリの生活の光と闇を捉えた。ビル・ブラントは、このシリーズに触発され「ナイト・イン・ロンドン」を制作している。

ウジェーヌ・アジェ(1857-1927)

フランス生まれ。19世紀末の消えゆくパリの街並みや人々の暮らし、建築物の内部の装飾の詳細部分などを撮影し、画家たちのための資料として販売する。これら生計のために記録した約8000枚の写真は、晩年、マン・レイに認められ、ベレニス・アボットによって世に広められた。近代写真の先駆者。

■本展の見どころ

① ヨーロッパのソーシャル・ドキュメンタリー写真とは？ その“美意識”に迫る！

ヨーロッパのソーシャル・ドキュメンタリー写真とはどのようなものなのでしょうか？見過ごされがちな社会の闇に光をあて、また、消えゆく古き良き姿を残すために写真が有効に使われたヨーロッパ。国家プロジェクトやキャンペーンとして大々的に写真が使われたアメリカに対して、ヨーロッパでは、一人一人の写真家の感性や創造力によって、記録性と芸術性に優れた作品が数多く生み出されました。本展では、その代表的な7人の写真家の作品を、それぞれ見応えのあるラインナップでご紹介します。さまざまな作品から見るヨーロッパの社会状況を、今の私たちはどのように受け止めることができるのでしょうか。その用途を越えた美意識あふれる作品に、私たちは心を動かされることでしょうか。

② ハインリッヒ・ツィレの写真作品 13点を初展示！

ベルリン市民の暮らしを風刺画などのリトグラフで描いたことで知られるハインリッヒ・ツィレ。ドイツでは、2007年に生誕150年を記念した展覧会が複数開催されるほどの人気の芸術家ですが、日本ではまだまだその名は知られていません。本展では、日本では見ることがむずかしいツィレの写真作品を、まとまった数で初展示します。産業の中心地であったベルリンを見つめ続けたツィレのカメラアイをご堪能ください。

③ トーマス・アナン『グラスゴーの『古い小路と街路(The Old Closes and Streets of Glasgow)』(1868)を初展示！

スコットランドのグラスゴー市が、都市計画のために、取り壊される建物や街角の風景を記録する写真撮影を委託したのがトーマス・アナンでした。19世紀後半のグラスゴー市は人口が急増し、住居は不足し清潔さを欠き、貧困による病気の蔓延や市民のモラル低下などの社会問題が次々に浮上しました。アナンが撮影したスラム街の写真には、狭い路地にひしめく過酷な生活環境のなかで、たくましく生きる市民の明るさや希望の光を垣間見ることができます。本展ではオリジナルの写真集を解体し、1点1点じっくりとご鑑賞いただけます。印刷のエキスパートも唸るほどのフォトグラビア印刷の美しさをご堪能ください。



トーマス・アナン 袋小路118番、ハイ・ストリート 1868年

④ 乾板が登場し、写真がめざましく発展！

写真術は1839年にフランスで発表されました。本展が取り上げる19世紀後半から20世紀前半は、乾板の登場によって、それまでとは異なるめざましい技術の発展を遂げる時代です。展示には、フォトグラビア印刷、ウッドベリー・タイプという特徴ある写真印刷の技術をご紹介しますとともに、美しいゼラチンシルバープリントの作品を多数ご鑑賞いただけます。

■担当学芸員によるフロアレクチャー

展覧会担当学芸員による展示解説を行います

日時：会期中の第2、第4金曜日 16:00～

※展覧会チケットの半券（当日有効）をお持ちの上、会場入口にお集まりください

■展覧会図録のご案内

展覧会の開催に合わせて、全展示作品と担当学芸員のテキストを掲載した図録を刊行いたします。

『ストリート・ライフーヨーロッパを見つめた7人の写真家たち』

美術出版社刊 2,310円（税込）

■開催概要

展覧会名	ストリート・ライフ ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち Street Life: Chronicles of Europe by Seven Photographers
会期	2011年12月10日（土）～2012年1月29日（日）
会場	東京都写真美術館 3階展示室 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 ホームページ www.syabi.com 電話 03-3280-0099
主催関係 開館時間	主催＝東京都 東京都写真美術館／協賛＝凸版印刷株式会社／協力＝講談社 10:00～18:00（木・金は20:00まで）ただし、2012年1月2日・3日は11:00～18:00 ※入館は閉館の30分前まで
休館日	毎週月曜日（ただし月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）、および 2011年12月29日～2012年1月1日、1月4日
観覧料	一般 600（480）円／学生 500（400）円／中高生・65歳以上 400（320） ※（ ）は20名以上団体料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
交通機関	JR 恵比寿駅東口より徒歩7分／東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分 ※当館には専用の駐車場がありません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

■お問い合わせ先

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

東京都写真美術館 事業企画課 電話：03(3280)0034 FAX：03(3280)0033

展覧会担当 鈴木佳子 y.suzuki@syabi.com

金子隆一 r.kaneko@syabi.com 伊藤貴弘 t.ito@syabi.com

広報担当 久代明子 a.kushiro@syabi.com 平澤綾乃 a.hirasawa@syabi.com

前原貴子 t.maehara@syabi.com

このリリースに掲載の図版データをプレス用にご用意しています。上記広報担当までお問い合わせください。